

会 議 録

公開・非公開 の別	【開催日】平成 30 年 6 月 4 日（月） 【時 間】13 時 00 分～15 時 00 分	【傍聴人数】○ 【傍聴室】
公開	【場 所】岸和田市役所 新館 4 階第 1 委員会室	岸和田市役所 新館 4 階第 1 委員会室

【名称】平成 30 年度第 1 回岸和田市補助金、負担金等適正化委員会

【出席者】

○は出席、■は欠席

足立委員	和田委員	城戸委員	田中委員
○	○	○	○

《事務局》企画調整部：渡辺理事
企画課：滝石主幹、川中担当員

【議題等】

1. 諮問
2. 今後のスケジュールについて
3. 岸和田市の財政状況について
4. 行財政改革の取組について

【会議録概要】

- 市長より委員委嘱。
- 委員全員の出席により、委員会の成立を確認。
- 委員の互選により、委員長に足立委員、副委員長に和田委員を選出。
- 本市の財政状況を踏まえた補助金、負担金等の課題、本市の補助金、負担金等の見直しの方向性について諮問。

委 員：補助金、負担金等の適正化について、諮問を頂きましたので、これから4名の委員で検討して参りたいと思います。

諮問書によりこの委員会に課せられた使命、答申として出さなければならない事項はわかりました。それでは、次第に従い、今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

事務局：（スケジュールの説明）

委 員：ありがとうございました。ただ今の事務局の説明に対して、何かご質問、疑問点、ご意見はございませんか。

（質問、意見等 なし）

次に、「岸和田市の財政状況」について事務局から説明を行い、その後質疑をお願いした

いと思います。それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局：（岸和田市の財政状況の説明）

委員：ありがとうございました。岸和田市の支出の状況としては、生活保護費等の扶助費の割合が大きく、また、過去に地域総合整備事業債を活用し多くの施設整備を行った結果として、現在は軽減したものの公債費の負担が未だに残っているとのことでした。それらに対応する財源として、市税収入が伸び悩み中、地方交付税に依存し、基金を取り崩してきた。そのような状況下において、地方交付税の算定誤りが生じたとのことでした。ただ今、ご説明いただいた内容について、ご質問、ご意見はございませんか。

委員：まず、市民病院について、一般会計から多額の繰出しを毎年行っていますが、赤字での運営を前提としているように見受けられます。次に、市立高校については、現在は進学率が高く、産業高校としての特色が薄れてきているように感じられます。最後に、幼稚園について、定員を満たすだけの人員が集まっておらず、提供されるサービスも不十分であるように思われます。これらの施設運営については、今後見直すべきと考えます。

事務局：市民病院の会計に対しては、一般会計から毎年約 14 億円もの繰出しを行っています。市民病院は非常に多くの診療科目を抱えており、それらが例え不採算であっても、安定した地域医療の提供のため、一般会計から一定補填の必要があります。繰出額については、他の公立病院と比較しても、標準的もしくは低い水準となっています。市立産業高校については、ご指摘のとおり進学率が高く、その特色が薄れてきており、何かしらの見直しが必要であると認識しております。幼稚園については、公立のものが市内に 23 園あり、府内では大阪市に次いで多い数であるという状況です。また、幼児教育・保育を一体的に考えるため、平成 27 年度から子ども子育て支援新制度が開始されましたが、本市においては、見直しが中々進んでいないと認識しております。

委員：生活保護受給者について、他市からの流入が多いと聞きます。何らかの手を打つべきではないでしょうか。

事務局：他市からの流入が多いかどうかは定かではありませんが、近隣市町村と比較して生活保護費が高いことは認識しています。担当部局にはその要因分析をお願いしています。

委員：身の丈にあった行政運営への移行を検討するとのことですが、どこに重点を置くのでしょうか。

事務局：財政分析の結果、他市町村と比べ、幼稚園、保育所、ごみ処理、一部施設の運営といった分野で支出が多い状況であることがわかっており、それらを中心に見直しを図るべきと考えています。

委員：市内施設については、指定管理者制度は導入しているのですか。

事務局：導入しています。例えば、浪切ホールについては、指定管理者制度を導入していますが、これまで多額の公費を投入しており、今後についても、億単位での支出が見込まれるという状況です。一方で、市民病院については、過去に独立行政法人化も検討しましたが、他の公立病院と比較して経営状況は概ね良好でしたので、市の直轄で運営しています。

委員：市民病院については、経営状況が悪化する前に、民間売却等の議論を始めるべきと考えます。

委員：基金を切り崩して財政運営を行っている状況ですので、今後の行財政改革の取組において、議論の俎上に載せてもよいかもしれません。

他に何かご質問はありますか。（質問等、なし）

それでは次に、「行財政改革の取組」について事務局から説明をお願いいたします。

事務局：（行財政改革の取組について説明）

委員：ただ今の説明につきまして、ご質問はございませんか。

委員：行財政再建プラン案において、即効性のある取組として土地の売却を計上していますが、これらの土地について、売却の目処は立っているのでしょうか。

事務局：現在、取りまとめを行っている段階でございます。

委員：持続可能な行政運営のための長期的、継続的に収入確保に取り組むことが重要と考えますが、具体的に取り組んでいる事項はありますか。

事務局：他の自治体で実績があるものを中心に、現在調査・検討を行っています。

委員：本日は、財政状況、行財政改革の取組について詳細なご説明をいただきました。本委員会は補助金、負担金等適正化委員会という名称ですが、今後議論する内容は補助金の見直しに関することのみでしょうか。今後、岸和田市が行財政改革を進めるに当たっての

本委員会の役割をお教えてください。

事務局：本委員会は、本市の補助金、負担金等について議論いただくものですが、単純に一律カットを行えばよいという議論ではなく、他市状況も踏まえ、補助金そのものの必要性等についてご議論いただきたいと考えております。第1回はその前提としまして、本市の財政状況を、他市との比較等も交え説明させていただいたところです。

委員：岸和田市においては、これまでの行財政改革の中で数多く人件費の削減を実施され、職員のモチベーションにも少なからず影響を与えてきたと思われます。今後の改革においては、職員のモチベーションを低下させない手法、意識改革が必要と考えますが、事務局のお考えをお教えてください。

事務局：これまで幾度も行財政改革を実施し、人件費の削減を行ってきたという経過もあり、非常に重要な問題であると認識しています。身を切る改革だけではなく、岸和田市再生に向けた方策や、職員のモチベーションを維持する手法についても合わせて検討していく必要があると考えております。

委員：地方創生等、国の補助金は活用されてきたのでしょうか。

事務局：これまで、地方創生等の補助金を上手く活用できていませんでした。補助金を活用し新たな施策展開を図るだけのエネルギーが不足していたと認識しています。今後は、行財政改革と併行して、検討すべきと考えています。

委員：他に何かご質問はありますでしょうか。（質問等、なし）

これで、本日の議事内容すべての審議が終了しました。

以上をもちまして、平成30年度第1回補助金、負担金等適正化委員会を閉会します。
ありがとうございました。

以上